

キャンヘルプタイランド会報・議案書

2023年度(法人9期) ネットワーク通信 Vol.96合併号

Newsletter Vol.9

会員の皆様、ドナーの皆様、2023 年もキャンヘルプタイランドの活動にご協力を賜り誠にありがとうございました。

昨年の会報では、コロナが収束し、観光客が戻っていること、それにも関わらず多くのタイ人はまだマスクを着用していること、コロナ禍で果たせなかった現地に赴いての直接支援を復活させたい等々、書き連ねましたが、あれから1年、さらに脱コロナが進んでいることを実感しています。観光客は増え続け、私が乗る通勤電車は早朝から夜 10 時ごろまで週末も関係なく、ラッシュ時並みの混雑が続いています。また、去年まではあまり見かけなかった日本人観光客も方々に目にするようになりました。マスク着用者は少数派になり、コロナというよりPM2.5（微小粒子上物質）を気にしてマスクをつけることが多くなったように思います。

支援の面でも、千種ロータリークラブ様よりご支援いただいているカンボジアでのトイレ支援を久しぶりに現地に赴いての直接支援という形で実施することができました。

このように、コロナ禍はほぼ脱することができたように感じます。その一方で気になる点もいくつか出てきているように思います。その一つは物価の上昇です。コロナが収束し始めたところからいろいろな物の値段が上がり始め、特に観光客の多いエリア、富裕層が住むエリア等での値上げは容赦なく、円安も相まって円で換算すると驚くこともしばしばです。それでもそうした店にも人が溢れ、ある所にはあるのだと感心させられます。

もう一つは隣国ミャンマーの政情です。先日、私が勤務する学校にミャンマーで留学エージェントを運営する日本の方が突然訪ねてこられました。聞くと、2月にミャンマー政府が徴兵を始めるとの発表を行ったことから、若者を中心に国外脱出の動きが活発化しているとのことで、ミャンマー人を留学生として受け入れてもらうことができないかという相談でした。軍事政権を嫌って、国外への留学の機運は元々高かったようですが、今回の徴兵の発表を受けて、留学予定者であっても手続き中に兵にとられることを恐れて一時避難先を探す動きが活発化しているそうです。ミャンマー人の国外脱出先として最も多いのがここタイで、2番目が日本なのだそうです。しかし、技能実習や特定技能ビザを取得しての就労者としての日本への出国は今後ミャンマー政府が認めない方針だそうで、既にミャンマー移民が多く、ミャンマー人コミュニティも出来上がっているタイへの出国が今後ますます増えるだろうという話でした。経済的に余裕のある人は留学生として、そうでない人は既にタイに移住している親戚、知り合いを頼って労働者としての流入が今後続くことになるでしょう。それは、少なからずタイ

の経済、雇用、政治、教育にも影響を与えることになるはずですが。

キャンヘルプタイランドとしても、タイ国内での教育問題はもちろんですが、既に支援を始めているカンボジア、混乱が続くミャンマーの情勢、またそれがタイに及ぼす影響についても注視していきたいと思います。

今後とも引き続きご支援の程、よろしくお願いいたします。

会長 西川 弘達

もくじ

1、活動カレンダー	2 ページ
2、第1号議案 2023 年度活動報告	3 ページ
3、石川さんの「カサロンの家」レポート	5 ページ
4、第2号議案 2023 年度会計報告	7 ページ
5、関本すみれさんのエッセイ	8 ページ
6、第3号議案 2024 年度活動計画	9 ページ
7、第4号議案 2024 年度活動予算	10 ページ
8、第5号議案 2024 年度運営体制	10 ページ
9、余白埋めコラム	11 ページ
10、ご寄付のお願い	12 ページ
11、会員募集と継続のお願い	12 ページ

活動カレンダー（法人第9期） 2023年2月1日～2024年1月31日

日付	内容	プログラム
2月13日（月）	名古屋千種ロータリークラブ支援事業打合せ	建設
2月24日（土）	2022年度第4回理事会	運営
4月2日（日）	総会 第1回理事会	運営
4月12日（水）	名古屋千種ロータリークラブ支援事業打合せ	建設
4月14日（金）	西川会長一時帰国 個人名銀行口座解約	運営
4月18日（火）	名古屋 NGO センター理事会 ボランティア協働会議	運営
4月22日（土）	第2回理事会・運営委員会	運営
5月20日（土）	名古屋 NGO センター総会	運営
5月23日（火）	ボランティア協働会議	運営
5月27日（土）	運営委員会	運営
6月20日（火）	ボランティア協働会議	運営
6月24日（土）	運営委員会	運営
6月29日（木）	タイ・カンボジア奨学金授与式出発	奨学金
7月3日（月）	ロイエット県・マハサラカーム県授与式	奨学金
7月4日（火）	カラシン県授与式	奨学金
7月5日（水）	ムクダハーン県・ナコンパノム県授与式	奨学金
7月7日（金）	カンボジア、サンパオルン授与式	奨学金
7月18日（火）	ボランティア協働会議	運営
8月1日（火）	タイ「カサロンの家」TV取材協力（7日まで）	山岳
8月22日（火）	ボランティア協働会議	運営
8月26日（土）	運営委員会	運営
9月5日（火）	名古屋千種ロータリークラブ卓話	建設
9月14日（木）	名古屋 NGO センター理事会	運営
9月24日（日）	運営委員会 タイ奨学金翻訳会	奨学金
10月23日（土）	第3回理事会・運営委員会	運営
11月3日（金）	名古屋千種ロータリークラブ カンボジアトイレ支援	建設
11月17日（金）	名古屋 NGO センター理事会	運営
11月25日（土）	運営委員会	運営
12月2日（土）	ぼらマッチ名古屋 2023	運営
12月9日（土）	国際協力カレッジ	運営
12月23日（土）	運営委員会&交流会	運営
1月22日（月）	2024年度千種ロータリークラブ支援打合せ	運営
1月27日（土）	理事会・運営委員会&新年会	運営

2024年度の予定（仮）

日付	内容	プログラム
4月7日（日）	総会	運営
6月下旬～7月上旬	奨学金授与式（タイ・カンボジア）	奨学金
8月	愛知大学ボランティアツアー（未定）	山岳
9月下旬	奨学金資料翻訳会	奨学金
11月	名古屋千種ロータリークラブ完成式ツアー 絵本コンクール発表	建設
12月	ぼらマッチ 国際協力カレッジ	運営

第1号議案 活動報告

1、建設プログラム

2023年度は、名古屋千種ロータリークラブ様からのご支援で、カンボジアの小学校へ2部屋のトイレを支援しました。11月にはロータリークラブの有志9名で現地の小学校を訪問し、贈呈式を行いました。

カンボジア王国バタンバン州サンパオルン郡 トゥールクロサン小学校
2部屋トイレ支援 総額 3,000 ドル (約 50 万円)

名古屋千種ロータリークラブ カンボジアトイレ支援 (11月4日)



2、奨学金プログラム

タイ奨学金 コロナ後の支援

2023年度は36名の子供たちに合計67万円を支援いたしました。昨年度からの繰越金5万円と今年度11月25日現在皆様からご寄付頂いた金額41万円と、不足した21万円は「指定なし寄付金」を充当させていただきました。なおその後にご寄付を頂きました6万円を24年度に繰越させていただきました。

今年度はコロナの影響も少なく授与式をロイエット、マハサラカーム、カラシンなど計5県で実施し久しぶりに子供たちの顔を見ることができましたが、参加者は高校生と専門学校生のみなので中学生がいない(フリーが支援する中学生はいましたが)のには若干の寂しさを感じました。

・奨学生の内訳 (カッコ内は昨年比)

- *ムクダハーン県…5名 (-2) *ナコンパノム県…3名 (-2) *カラシン県…7名 (+1)
- *マハサラカーム県…10名 (-0) *ロイエット県…11名 (+3)

タイ奨学金授与式 (7月3日~5日)



・申請書類、手紙の翻訳

昨年に続き愛知県に在住のタイ人と日本人の協力で9月に事務所に於て翻訳会を実施し、翻訳した申請書類や手紙は12月にドナーの皆様にお送りいたしました。 今年の翻訳会の様子→

・クリスマス&年賀カードの送付

今年も12月中旬に奨学生36名全員にカードを送りました。



ドナーの皆様にお送りする書類と手紙は「使途が見える支援」を実現する事と、皆様から子供達への手紙等を送る際の資料となる事を目的としています。皆様からの手紙等を子供達は心待ちにしていますので、絵葉書でも結構ですでお待ちしています。（事務局へお送り頂きますればタイ語に翻訳して奨学生に送ります）

＊最近の為替について＊

近年の「円安」のため皆様からの寄付金では支援金の5000パーツを下回っております。直近の交換レートは1万円で2250パーツ程ですので、5000パーツを支援するには「22200円」が必要で（前期3000パーツを36名、後期2000パーツを31名の合計170000パーツでは）総額では75万5555円で8万5555円の支援金の持ち出しでこれに授与式経費（概算15万円）を加えると約90万円がかかっているのが現状です。つまり今年は基金から23万円を支出しています。

事務局としては、渡航経費を抑えるために他のプログラムと実施時期を合わせる等渡航回数を減らす等の節約策を実施していますが、皆様からもアイデアをいただければ幸いです。

今年は基金の中から補填をしましたが、今後もこの状態が続いた場合は（基金の残高が減少していることもあり）見直しを検討せざるを得なくなると思われます。

カンボジア奨学金

今年度も無事にバタンバン州サンパオルン郡にて30名の児童に奨学金を支給することができました。7月7日には現地にて奨学金授与式を開催することができ、サンパオルン郡の郡長様やいつもお世話になっている教育長のアンさん他教育委員会のスタッフの皆様、各学校の校長先生をはじめとする教職員の皆様、奨学生とその保護者の皆様など、総勢100名近くが郡の所有する集会施設に集いました。

カンボジア奨学金授与式（7月7日）



すみれ基金（大学生奨学金）

故 関本すみれさん（エッセイあり）の寄付を大学生特別奨学金として支援する“すみれ基金”は2011年からスタートし、2023年度までに総勢23名に支給しました。その最後の学生となるオラタイさん（写真左）が看護学部を無事に卒業されました。

オラタイさんはタイ北部に暮らす山岳少数民族出身の孤児で、チェンマイにある「希望の家」で5歳から高校卒業まで過ごし、チェンライの大学の看護学部へすみれ基金大学生特別奨学金を使って進学しました。

「希望の家」を運営するユースチャリティー財団は、キャンヘルプタイランドが支援している「カサロンの家」も運営していますので、いつもお世話になっているタッサニーさん（写真右）も卒業式に駆け付けました。



3、山岳部少数民族支援プログラム

2023 年度も「カサロンの家」で開催される愛知大学の学生ボランティアツアーは実施されませんでした。その代わりに、数名の大学生ボランティアが個人的に「カサロンの家」を訪問し、寮の子どもたちと交流しました。また、8月下旬には、スタッフの横江さんと大学生の石川さんのお二人が「カサロンの家」を訪問されました。

～タイ・カサロン家でのボランティア活動を通して～

愛知県立大学 石川沙羅

私は海外に行ったことは何度かありますが、海外でのボランティア活動をしたことは今までに一度もなく今回のカサロン家での活動が初めてでした。現地の子供たちは皆優しくフレンドリーな子達ばかりですぐに馴染むことができました。日本から持っていったうちわや日本のシールなどで一緒に工作をしたり、ボールで遊んだり、折り紙をしたりと様々なことをしました。私にとってこれらの活動は単に「楽しかった」だけでなく、自分の学びの時間でもありました。何をすることも常に彼らは自分自身で考えて行動をし、工夫をしながら物事を進ませていくという事を絶えず行っており、私より年下の子達ばかりなのに私よりも自立しているなど日々感じていました。加えて、どの年齢層の子でも料理の手伝い、洗濯、家事等それぞれで決められていることはもちろん、プラスアルファでも色々と家のことを熟していました。そして、彼らは自立しているだけではなく発想力や創造力にも長けて



おり、ひたすら驚きと学びが絶えない日々でした。このような彼らの行動に私は強い刺激を受けました。また、自分自身と彼らを比べた時、はるかに彼らの方が大人だということに気づかされました。

上記で挙げたように、現地の子供たちから学んだことは数えきれないくらいありましたが、その他にも彼らが飼育していた動物からも実は改めて気づかされたことがいくつかありました。様々な動物が飼育されている中で特に「命」と「感謝」という言葉の大切さに改めて気づかされたのが豚の存在でした。私は、生まれて初めて豚が出荷されるプロセスを実際に目の当たりにしました。普段は、すでに加工されている豚肉を購入することしかしない私にとって、その光景を見たとき絶句しました。その点、カサロン家の子供たちにとってこれらのプロセスは日常茶飯事であり、常に「命」の尊さと向き合っているという点からもやはり、私よりも年下なのにも関わらず成熟しているなど感じました。

これらの経験を通して、現地の文化や習慣並びに人々の生活や自分自身の成長そして



ボランティアを通しての人とのつながりなどについて沢山のことを学ぶことができ、気づくことができました。さらには、様々な社会問題にも目を向けそれに対する関心や興味を持つことができ、社会貢献の意義などについて考えることができました。三日間という短い期間でしたがとても充実した三日間であったと思います。海外に限らず、これから色々なボランティアに参加したいと感じました。また、カサロン家で学んだことをこれからの生活の中で生かしていきたいと強く思いました。

4、ランチプログラム

2023年度のランチプログラムは、山岳少数民族の子ども達のための学生寮「カサロンの家」への米購入金支援を行いました。総額 85,000 円の支援となります。「カサロンの家」では、自分たちで米も栽培していますが、姉妹寮の「希望の家」と合わせると1日で約 10 キロの米を消費し、自給自足には程遠い状況です。子ども達のためには、年間 3 トン以上の米が必要となります。

5、図書支援プログラム

2023年度「おおしま国際手作り絵本コンクール」に 2 作品を応募し、1 作品が見事に入選いたしました。

作品名	作者	学年	受賞
A HOPE OF HAPPINESS	Peerawat Bunme 他	中学 3 年	奨励賞（チューリップテレビ）

2023年11月25日（土）に射水市で表彰式が開催されましたが、今回、スタッフは代理出席できませんでした。その代わり送られてきた表彰状に記念品を添えて、2024年2月6日にタイ王国カンペンペット県のカンペンペット・ピタヤーコム学校で表彰式を開催しました。

絵本コンクールの受賞者ら→



6、カンボジア支援プログラム

2023年度もカンボジアへの緊急支援金の送金を断念しました。ご寄付を頂いておきながら支援できなかったことを大変心苦しく感じていますが、来年度以降に現地の状況をよく見て大きな支援を実施します。

7、国内活動・イベント

事務局

活動カレンダーをご参照ください。 ネットワーク通信は第95号、第96号（本紙）を発行

ボラマッチなごや 2023（名古屋市主催）

12月2日（土）愛知大学ささしまキャンパスでボラマッチなごや 2023 が対面形式で開催されました。このイベントの趣旨は、ボランティアしたい人とボランティアを募集している団体とのマッチングですが、とても多くの方がキャンヘルプタイランドのブースに来てくださりました。

また、今年度愛知大学と「カサロンの家」のコラボでキーホルダーなどを開発し販売するという企画を実施し、その様子が 24 時間テレビで放送されました。そして、そのキーホルダーをボラマッチの会場で愛知大学のフェアトレードサークル SEED のお二人が販売してくれました。



国際協力カレッジ（名古屋 NGO センター主催）

毎年 12 月に名古屋 NGO センター主催で行われる「国際協力カレッジ」に今年も参加しました。昨年まではオンラインでの開催でしたが、今年度は JICA 中部で久しぶりの対面開催となり、海外支援系の NGO12 団体のブース出展と一般参加者約 70 名で、大変盛り上がりました。しかし、その後のボランティア獲得にはつながりませんでした。今後も、ボランティア獲得のために試行錯誤を続けていきます。

第2号議案 会計報告(2023年度)

2024年3月2日に久保監事に監査を受け承認されました。

活動計算書

2023年2月1日～2024年1月31日まで

(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費	72,000	72,000
2. 受取寄付金		
(1)タイ		
奨学金事業	470,000	
建設事業	20,000	
給食事業	85,000	
図書支援事業	1,000	
山岳部少数民族事業	50,000	
(2)カンボジア		
奨学金事業	90,000	
緊急支援	10,000	
建設事業	557,957	
(3)その他寄付金		
指定なし寄付金	470,000	
(4)為替差益	100,430	100,430
3. 運営経費寄付金	37,897	37,897
5. その他収益		
受取利息	13,803	13,803
経常収益計		1,978,087
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)その他経費		
タイ奨学金事業	905,846	
タイ建設事業	0	
タイ給食事業	172,709	
タイ図書支援事業	0	
タイ山岳部少数民族事業	89,730	
カンボジア支援事業	0	
カンボジア奨学金事業	354,905	
カンボジア建設事業	557,957	
2. 管理費		
(1)その他経費		
諸会費	10,000	
印刷製本費	3,500	
通信運搬費	10,048	
消耗品費	0	
賃借料	36,000	
支払手数料	3,753	
寄付金	0	
経常費用計		2,144,448
当期正味財産増減額		△ 166,361
前期繰越正味財産額		15,442,560
次期繰越正味財産額		15,276,199

貸借対照表

2023年2月1日～2024年1月31日まで

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	15,276,199	
流動資産合計		15,276,199
2. 固定資産		
固定資産合計		0
資産合計		15,276,199
II 負債の部		
1. 流動負債		
流動負債合計		0
2. 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		0
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		15,442,560
当期正味財産増減額		△ 166,361
正味財産合計		15,276,199
負債及び正味財産合計		15,276,199

財産目録

2023年2月1日～2024年1月31日まで

(単位:円)

科目	金額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金		
郵貯銀行	5,850,394	
UFJ銀行キャン	7,021,382	
UFJ銀行西川	0	
バンコク銀行	2,404,423	
流動資産合計		15,276,199
2. 固定資産		
固定資産合計		0
資産合計		15,276,199
II 負債の部		
1. 流動負債		
流動負債合計		0
2. 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		0
正味財産		15,276,199

* UFJ銀行西川は、2023年4月14日に解約しました

事業別費用

(単位：円)

科目	支援金	業務委託費	旅費交通費	通信運搬費	支払手数料	その他	合計
I タイ							
1. 奨学金事業	702,000	69,420	134,426				905,846
2. 建設事業							0
3. 給食事業	165,000		7,709				172,709
4. 図書支援事業							0
5. 山岳部少数民族事業	0		89,730				89,730
	867,000	69,420	231,865	0	0	0	1,168,285
II カンボジア							
1. 奨学金事業	345,600		9,305				354,905
2. 建設事業	451,897		106,060				557,957
3. 緊急支援							0
	797,497	0	115,365	0		0	912,862
III その他 為替差損							0
合計	1,664,497	69,420	347,230	0	0	0	2,081,147

関本すみれさんのエッセイ

2010 年度会報から

最優秀賞

おじいさんわんこ

関本すみれ

その犬は、二月の寒い夜、突然、私の前に現れた。昭和三十二年、五歳の私は、年明けから母方の祖父母に預けられていた。両親は、自宅も兼ねた小さな医院の開業を間近に控え、とても忙しくしていた時期で、私の面倒をみるゆとりがなかったためである。

祖母は、お手玉を作ったり、たくあんを芯にした海苔巻を丸かじりさせてくれたり、私が喜びそうなことを次々に考えだして、とてもかわいがってくれた。私も祖母が大好きだった。でも、それまで一度も両親、とりわけ母と離れたことのなかった甘ったれの一人っ子は、「おかあちゃん」が迎えに来てくれる日を待ちわびて、毎日、湿っぽい気分でも過ごしていた。

その夜、祖父は留守で、祖母と私は早めの夕食を済ませたところだった。昭和三十年代初めの田舎のこと、ご飯を炊くのはかまど、洗い物をするのは外の井戸端でという暮らしだった。

祖母がお茶碗を洗いに出ていて、裏口が開いていたのだろう。ささっと軽い音が聞こえ、何かが入ってきた気配がしたので、障子を少し開けて覗いてみた。土間に、陽気な顔つきの茶色い犬が居て、愛想よく尻尾をふっていた。それまで、犬に触ったことは一度もなかったのだから、そばへ寄る勇気はなかったけれど、この気立てのよさそうな犬をかまってみたくなった。そこで、手近にあった煮干しの缶から一掴み投げてやると、犬は土間に散らばった小魚を素早く食べ、尻尾をふって、私を見つめた。あまり嬉しそうにするので、もう一掴み投げてやったところに祖母が戻ってきた。犬は逃げもせず、煮干しを食べ終えると、しばらく私を見て、ふっと出ていった。祖母の話によると、あれは、五百メートルほど先の踏切を越えたところの牛乳屋さんの飼犬で、時々この辺りを散歩しているという。「そやけど、家に入ってきたんは初めてや。すみれちゃんと遊びたかったんやろ。だいぶ年とってるみたいや。おじいさんわんこ、やな」。私は、「おじいさんわんこ」という呼び名が気に入った。

おじいさんわんこは次の夜もやって来た。私は嬉しくて、でも、まだそばに寄る度胸はなくて、縁側から煮干しを投げてやった。そこへ祖父が帰ってきた。祖父は、煮干しの缶を見ると怖い顔になり、大声で犬を追い払ってしまった。恨めしく思ったが、祖父が怒ったのも無理はない。缶の煮干しは、飼っている二十羽ほどの鶏に丈夫な卵を産ませるための大事な餌だったのだ。数は少なくとも卵は大事な収入源だった。

怒鳴られたから、もう来ないとあきらめていたのに、おじいさんわんこは翌日も現れた。ただし、祖父のいない屋間に。祖母と私は、かまどの焚き付け用の小枝を拾いに、近くの山へ出かけるところだった。

「あんたも行くか？」と声をかけて、歩き出すと、犬はついてきた。踏切のそばまで来た時、飼い主の家に帰るかなと思っていたら、犬は私と一緒に道を折れ、山道をのぼった。

おじいさんわんこに好かれてると、強く感じたのはこの時だった。そして、祖母が小枝を集めるのを待っている間に、私は初めて犬に触った。茶色の毛並みは少しごわごわしていた。背中を撫で、頭を撫で、顎の下に触った。犬は穏やかな表情で、じっとしていた。日溜まりみたいに温かい身体だった。帰り道、踏切で別れ、犬は自分の家に帰っていった。

翌朝、母が迎えに来て、私は両親の許に戻った。祖母は時々手紙をくれた。手紙によると、おじいさんわんこは、あれから何度か家を覗きに来たが、私もういないと悟ったのか、やがて来なくなっただけ。「でも、元気に散歩してます」ということだった。それから祖母の手紙の結びは、いつも「おじいさんわんこは元気です」だった。ところが、秋の終りに届いた手紙にはこう書かれていた。「おじいさんわんこが死にました。踏切で電車にはねられたのです」

五十年近くも経つのに、一緒に過ごした時間はごくわずかなのに、おじいさんわんこは、ずっと私の心に寄り添ってきてくれた。浮かぶのは、冬木立ちの中で、少し傾きかけた冬の太陽を黙って眺めている、幼い私とおじいさんわんこの後ろ姿。犬は私の肩を抱いている。永い年月の間に、私の心が創り上げたイメージなのかもしれない。けれど、生きるのがつらくなった時、この光景を思い浮かべると、心が温かく潤ってきて、立ち直ろうという気が静かに湧いてくる。おじいさんわんこの思い出の底には、父母や祖父母が、幼い私に注いでくれた愛情が息づいているからだと思う。

「おじいさんわんこ」は、ただの犬ではなく、私が受けてきたたくさんの愛の象徴なのだ。

第3号議案 活動計画

1. 建設プログラム

2024年度は、名古屋千種ロータリークラブ様のご支援で、11月にタイの「カサロンの家」にてトイレ建設支援を実施する予定です。事業予算は10万バートを予定しています。すでに3部屋のトイレ兼シャワールームの建設見積をもらっているため、後はロータリークラブ様からのお返事と建設開始の待つのみです。

「カサロンの家」設立から20年近くが経ち、施設の老朽化も始まってきました。この支援を皮切りに建物の改築工事が進むことを期待します。

2. 奨学金プログラム

タイ奨学金 高校生、専門学校生への支援

2022年度から高校生と専門学校生への支援になりましたが24年度は継続して実施していきます（対象県は3県で人数は現在調整中です）授与式は現地で開催する予定です。

24年度の支援は合計35～40名、合計金額は70万円程度を予定しています。

皆様へ奨学生からの手紙等をお送りするのは例年通り12月上旬を予定しております。それに伴い、翻訳会も9月か10月に実施します。近くになりましたらブログなどで告知します。翻訳会にはどなたでもご参加いただけますので、ぜひよろしく願いいたします。奨学生へのクリスマスカードも発送予定です。

カンボジア奨学金

昨年度に引き続き、カンボジア王国バタンバン州サンパオルン郡の小学校低学年30名を対象に奨学金を支援します。小学1年生から3年生まで、各学年10名ずつ、ひとり年間80ドルを支給し、総額2,400ドルの支出となります。また、奨学金授与式もタイでの授与式の日程に合わせ、6月下旬から7月上旬で開催予定です。

3. 山岳少数民族支援プログラム

2024年度は、愛知大学学生ボランティアツアーが復活する方向で動き出しています。現在の計画では、8月に15名のツアーを実施予定です。今後、このツアーが復活したら、「カサロンの家」にとっては安定した収入源になります。

4. ランチプログラム

2024年度も「カサロンの家」への米購入費支援を実施します。ランチプログラムへのご寄付の合計から経費分として5%を差し引いた金額を、米購入費として支援します。

5. 図書支援プログラム

2024年度も引き続き、富山県射水市の大島国際手作り絵本コンクールへ、タイの子どもたちが手作りした絵本を出品します。

6. カンボジア支援プログラム

現地の状況や支援方法の妥当性を見極め、支援実施可能なタイミングになりましたら、支援を再開したいと考えます。よって2024年度も予算は計上しません。寄付金については今後も積み立てていきます。

7. 国内活動

運営委員会8回（5、6、8、9、11、12月）、理事会4回（4、7、10、1月）、総会は4月
運営委員会、理事会は毎月第4土曜日に開催予定

ネットワーク通信も年2回発行。2024年度も積極的にいろいろなイベントに出展していきます。

第4号議案 活動予算（案）

（単位：円）

	8期実績	9期予算	9期実績	10期予算
【繰越】	15,222,594	15,442,560	15,442,560	15,276,199
【収入】	2,046,295	1,746,000	1,978,087	2,107,000
タイ奨学金事業	480,000	640,000	470,000	470,000
タイ建設事業	10,000	10,000	20,000	550,000
タイ図書支援事業	9,000	9,000	1,000	10,000
タイ給食事業	80,000	80,000	85,000	85,000
タイ山岳部少数民族事業	282,000	157,000	50,000	350,000
カンボジア奨学金	140,000	370,000	90,000	80,000
カンボジア建設事業	0	0	557,957	0
カンボジア緊急支援	30,000	30,000	10,000	10,000
運営経費寄付金	40,000	40,000	37,897	30,000
指定なし寄付金	464,000	400,000	470,000	450,000
会費	81,000	0	72,000	72,000
為替差益	421,931	0	100,430	0
受取利息	8,364	10,000	13,803	0
【事業費】	1,716,044	1,565,000	2,081,147	2,340,000
タイ奨学金事業	773,226	940,000	905,846	900,000
タイ建設事業	129,153	30,000	0	500,000
タイ図書支援事業	36,742	15,000	0	10,000
タイ給食事業	115,000	80,000	172,709	80,000
タイ山岳部少数民族事業	246,730	150,000	89,730	400,000
カンボジア奨学金事業	415,193	320,000	354,905	400,000
カンボジア支援	0	0	0	50,000
カンボジア建設事業	0	0	557,957	0
為替差損	0	30,000	0	0
調査費（業績評価、現地調査）	0	0	0	0
【管理費】	110,285	124,000	63,301	96,000
通信運搬費	40,917	50,000	10,048	20,000
賃借料	36,000	36,000	36,000	36,000
支払手数料	2,288	3,000	3,753	10,000
印刷製本費	5,000	10,000	3,500	10,000
諸会費	10,000	10,000	10,000	10,000
消耗品費	12,080	15,000	0	10,000
寄付金（イーパーツへ）	4,000	0	0	0
次期繰越金	15,442,560	15,499,560	15,276,199	14,941,302

第5号議案 理事と運営委員の紹介

2024年度は3名の理事と1名の監事を下記の通り提案致します。

役員	西川 弘達（理事長） 坂 茂樹（副理事長） 松本 康裕（理事） 久保 卓己（監事）
----	--

2024年度は次の8名の運営委員で活動します。

運営委員	西川 弘達（理事長） 坂 茂樹（副理事長） 松本 康裕（理事） 大矢 まゆ美 寺島 優美 横江 隆弘 伊東 朋子 加藤 信二
------	---

※2月に運営委員の募集を行い、理事会の承認のもと理事長が任命しました。

余白埋めコラム① カンボジア奨学金授与式

2023年7月7日（金）バタンバン州のサンパオルン郡の集会場で「2023年度カンボジア奨学金授与式」が開催されました。前日に現地入りし、翌朝に教育委員長のアンさんにホテルまで迎えに来ていただき、会場入りしました。会場にはすでに奨学生30名（小学1年～3年生）とその保護者、先生方が集まっていました。

準備が整った後、郡長も席に着かれ、全員が起立し、国歌の斉唱とその方のスピーチで式典が始まりました。そして、教育長の話があり、僕も紹介されたので簡単に挨拶してから奨学金の授与が始まりました。総勢30名の児童が順番に奨学金を受け取り、その場で写真撮影をし終わるまで約45分かかりました。スタートから終了まで約1時間半の行事で、最後に全体写真を撮影して終了です。

コロナ禍も開け、こうして奨学金を手渡しできるようになったことで、実際に子どもたちの笑顔を見られるようになり、ますます支援の必要性を実感します。円安でこのような寄付金に頼る支援は大変厳しい状況ですが、たったの80ドルでもそれが役に立っていることを願い、今後もこの奨学金プログラムを続けて行こうと思います。



余白埋めコラム② クーカム

いつも翻訳会でお世話になるタイ女性の会の皆様との新年会で、クーカム（邦題：メナムの残照）というタイの小説が話題になったので、まだ読んでいない僕は、次の日すぐに図書館へ借りに行きました。

このストーリーの存在は知っていましたが、内容はほとんど知らず、“コボリ”という日本兵とタイ人女性との恋愛話という情報だけで、タイでその話題になると必ずと言ってよいほど笑ってごまかしていました。タイでは、映画やテレビドラマにもなり繰り返し放送され、それなりに視聴率のとれる人気の作品なので知らない人はほとんどいません。（2度ほど映画化されています）

上下巻に分かれた長い小説で、それを読破する事は老眼の進んだ眼にはとてもとても酷な作業でしたが、何とか返却期限内に読み終えることができました。内容はネタバレになってしまうのでここには書きませんが、舞台は第2次世界大戦の頃のタイ バンコクで、タイの住民たちと駐留していた日本の軍人との関係性がよくわかり、また、人間の“したたかさ”もちゃんと表現されていました。

第2次世界大戦がはじまり、日本軍がビルマ（戦場にかける橋）やインド（インパール作戦）を攻めるための補給基地としてタイを選び、そこから陸路を使って進軍するための拠点としました。物語の中で、まさにそこに派遣されたのが軍人“コボリ”です。そして、そこで暮らしていたタイ人女性との出会いと別れ。信頼と裏切り。

この小説の内容をざっくりと理解できたので、これからは奨学金授与式などでタイを訪問した時に、この話題になったら笑ってごまかさずにちゃんとした会話ができるようになりました。「日本人男性は“コボリ”の様な人ばかりだよ。」と。そして「アンスマリンは、どこにいるの？」と。

僕のタイの友人は、この物語の主人公（アンスマリン）が暮らした架空の家の近くに住んでいます。まだチャオプラヤー川に橋が架かっていなかった時代、SIAM（サイアム）の中心部は川の西岸（トンブリー地区）でした。アンスマリンもその西岸で暮らしていました。ですので、僕はこの小説の舞台となった場所の近くを何度も訪れていたという事になります。小説を読んだことで、次回この友人を訪問するのが今から楽しみです。まさに聖地巡礼です。

第2次世界大戦の頃にタイへ渡った日本製の機関車→



ご寄付のお願い

各プログラムへのご寄付をよろしくお願ひいたします。ご協力くださる方は、同封の振込用紙もしくは郵便局に備え付けの振込用紙を使用いただき、必要事項をご記入の上お振込み下さい。

尚、寄付金の使途の指定がない場合は、こちらで必要なプログラムで使用させていただきますのであらかじめご了承ください。

奨学金プログラム (タイ)	1 □	10,000 円
奨学金プログラム (カンボジア)	1 □	10,000 円
給食プログラム (米支援)	1 □	5,000 円
建設プログラム (タイ・カンボジア)	1 □	5,000 円
図書支援プログラム	1 □	1,000 円
山岳民族支援プログラム	1 □	10,000 円
運 営 基 金	1 □	1,000 円
会 費 ※	1 年	3,000 円

※ 会員制度とは…
 会員になっていただいた方には、年2回「ネットワーク通信」をお送りし、キャンヘルプタイランドの活動やイベント情報、タイやカンボジアにまつわるいろいろな情報をお伝えしていきます。
 年1回、会費 3,000 円をお振込みください。

寄付金・会費のお振込みは…

<郵便振替口座>

口座名：NPO キャンヘルプタイランド 番 号：00280 - 2-43793

会員募集と継続のお願い

キャンヘルプタイランドでは、会の運営を円滑にするために運営費を支えていただける「会員」を募集しています。多くのNPOが寄付金の15～30%もの運営経費で運営されているのに対して、私たちは、わずか5%の経費しか計上していません。従って会員の皆さんの会費（年額3,000円）で運営費の不足分を補っているのが現実です。会員の皆さんには年2回の「ネットワーク通信」で活動の詳細をお伝えすると共に、各種行事のご案内もいたします。皆様のご協力をお待ちしております。

お問い合わせ先

住 所：〒450-0001
 名古屋市中村区那古野 1-44-17 嶋田ビル 203
 キャンヘルプタイランド事務局
 T E L：050-3578-5131
 （事務所開設時間不定期 来所の事前予約必要）
 Eメール：office@canhelp.jp
 U R L：http://canhelp.jp

特定非営利活動法人

キャンヘルプタイランド会報・議案書
 Vol.9
 ネットワーク通信 Vol.96 合併号
 発行：NPOキャンヘルプタイランド
 発行人：西川 弘達
 編集人：坂 茂樹
 発行日：2024年3月

NPO キャンヘルプタイランドは、すべて無給ボランティアで運営されています。皆様からのご寄付が活動の支えとなっていますので、ご理解とご協力の程、よろしくお願ひいたします。